



世田谷 からの声

7年。

あれから

福島の子どもたちとともに・世田谷の会代表 星野弥生

2011年3月11日から7年が経ちました。私たちが「生きる」ということを根底から問われ、「経済よりのち」と誰もがうなずいたはず…でしたが、いつの間にか元々の木阿弥、オリンピックへの大合唱の中「あのこ」は忘れ去られていくようです。福島で発電される電気を消費している東京に暮らす私たちが、いわれのない被害を受けることになってしまった福島の子どもたちにいったい何が出来るだろう…、そんな問いから始まった2012年春の「ふくしまっ子リフレッシュin世田谷」の取り組みも、2017年冬で17回目となりました。延べ1144人(342家族)が福島から世田谷を訪れたことになりました。この活動を続けていくことによって、私たちは、忘れさせようとする力に抗することができます。福島の家族と接し、福島の状況を知るさまざまな機会を持つことで私たちは、原発事故には終わりがなく、子どもたちの将来をしっかり見据えていかなくてはならないと改めて気付かされます。

これまでは春、夏、冬の長期休みに合わせて実施してきたリフレッシュですが、2017年度は夏を除き春と冬に実施しました。時が経つにつれ、寄付金も次第に減ってきます。福島で子どもたちが安心して外遊びができない、という状況が続く限り、世田谷でのリフレッシュを継続していきたいと考え、他の団体による保養受け入れが比較的充実している夏の実施を思い切って取りやめてみました。果たして春と冬は希望者が多く、ご期待に沿えなかったご家族には申し訳ないといつも思います。

地方への引っ越し、介護や看護などさまざまな事情で動ける運営委員の数が減る中、若い世代を仲間に入れることが事業を継続する上で必須です。いつも子どもたちの頼りになる遊び相手は学生ボランティア。冬のリフレッシュでは、歓迎会を大学生に仕切ってもらい、雰囲気が変わりました。区内にある大学のボランティア・ネットワークなどを活かして、若手を中心にした企画をどんどん取り入れていく方向を探っていきたいと思っています。

「ふくしまっ子リフレッシュ」は当初から世田谷区、世田谷区教育委員会との共催の形で取り組まれています。区内二箇所の宿泊施設を提供していただき、区立小・中学校の全生徒、保育園・幼稚園の全園児に支援を呼びかけるチラシを教育委員会経由で配布していただくということは、この活動を続けていく上で本当に大きな助けとなっています。そして多くの区民からの寄付金、ボランティアの協力があったからこそ成り立ってきました。これからも一層のご協力、ご支援をお願いします。

あれから8年目に入る春、砧公園の満開の桜の下でお花見ができることを願い、再び「世田谷へようこそ!」帰ってきたね!と子どもたちを迎えることにしましょう。

ボランティア
阿波加 友さん(法政大学パフォーマンスサークルすだま)

今年は春と冬の二回、例年通り公園遊びと歓迎会でのパフォーマンスに参加させて頂きました。春は夏・冬に比べて長期の滞在、子どもたちがたくさんプログラムに疲れを見せるかと思いきや、最終日まで元気いっぱい遊び、こちらが元気をもらってばかりでした。ジャグリングのパフォーマンスは運営する代が四年生から三年生に代わって初めてのイベントでステージの構成や技の完成度に苦戦しつつも三年生を中心にまとめあげ、チームで満足いく発表ができました。冬のふくしまっ子は一年生もパフォーマンスとして加わり大所帯での参加、歓迎会全体の進行も任せられサークルとして新しい成長の機会を頂きました。一年を通して子どもたちの成長やエネルギーに驚かされ、私たちが子どもたちに負けず成長していかなければと刺激をもらいました。春はまた代が変わり新年度に向け挑戦の時期となりますが、各学年の特色を生かし来年度も頑張ります!

ボランティア 上野 瀬貴さん(東京教育専門学校)

私は大学在学中のボランティアサークルの活動をきっかけに5年前に初めて「ふくしまっ子」に参加しました。多くの日程に参加することで福島のご家族と仲良くなることができたと感じます。仲良くなったご家族とまた会いたいという思いから5年間ボランティアとして活動に携わってきました。

初めて参加する子どもたちは最初、少し照れた様子を見ますが遊び始めるとすぐに打ち解けて一緒に思いっきり遊びます。2回目、3回目参加のご家族も多くいますが、大きく成長した子どもたちの様子を見ることができるのは私の喜びの一つでもあります。

私は福島の方々に特別なサポートをすることはできませんが、子ども達と一緒にたくさん遊び、また来たい!と思ってもらえるように触れ合っています。これからもたくさんの素敵な出会いのあるふくしまっ子リフレッシュを楽しみにしています。

福島 からの声

参加者 柳沼 亜矢子さん

ふくしまっ子リフレッシュに参加させて頂き、世田谷の会の皆さんは子どもたちの為にはもちろん、私たち親の為にもいろいろ考えて下さり、福島県にも何度も足を運んで頂き、話を親身に聞いて下さり、大変感謝しています。また、1人でも多くの方がリフレッシュに参加できるよう、乗車定員が多いバスを手配して下さっていると知り、細かい気配りまで嬉しく思います。

世田谷の会の皆さんはもちろん、その家族の皆さんと一緒にリフレッシュに参加させて頂き、優しく接して下さい、温かい気持ちになりました。ボランティアさんたちも子ども達の名前をすぐ覚えてくれて、本気で一生懸命遊んでくれて、感謝しています。子どもたちが自分のペースで、のびのびと遊べるプレーパークでは、たき火に遊ぶバン、普段なかなかできないことができ、子どもたちはもちろん親まで楽しませて頂き、大変リフレッシュになりました。最後のお別れの時には、砧公園内からバスが見えなくなっても、歩道まで追いかけてきてくれて、最後の最後まで本当に嬉しく思います。

ふくしまっ子リフレッシュを開催するにあたって、数えきれない程の打合せや準備、さまざまな方々からのご支援、ご協力があったので「世田谷の会」。他県からも福島県のことを応援して下さい、いつも本当にありがとうございます。

震災から7年経ち、震災の年に生まれた子どもたちは、今春、全員小学生になります。影響を口にする人は福島県民では少なくなってきたように思いますが、ふくしまっ子リフレッシュに参加させて頂き、福島県内のいろいろな地域の方とお知り合いになって、さまざまな福島の状況を知ることができました。これからもこのつながりを大切に、福島の子どもたちとともに成長していけたらなあと思います。

ボランティア 篠崎 律子さん(準運営委員)

冬のリフレッシュ3日目、お茶会に初めて同席させて頂きました。保養に対する意識、なぜ保養に行くのか、その理由がはっきりしていること。けれども保養になぜ行くのかということについて話せないこと。…そうした話題が心に残りました。だからこそ、こうした保養の場での情報交換、交流が、何かあった時に受けとめられる場所となることを、あらためて感じました。

学生のパワーを感じました。学生にとっての大学間交流にプラスして、大学内で、リフレッシュの活動への参加をつなげていく形ができてきていること…そのことは、リフレッシュの活動には大きな力となるのではないかなと思います。

参加者 佐久間 美千子さん

この冬2回目の参加をさせて頂きました。到着すると、皆さんがとびっきりの笑顔で迎えてくださり、温かく、懐かしく、嬉しい気持ちで込み上げてきました。

放射能の事だけでなく、子育てについても、いろんな話、愚痴を聞いてくださり、思いっきり好きな外遊びを楽しみ、帰る頃には心が軽くなります。大都会で、古き良き、人との繋がりが感じます。

あの未曾有の事故から、間もなく丸7年。もう7年、まだ7年…もう放射能は大丈夫なのでしょう?と言う方が多い中、私には終わった問題とは到底思えず、次世代、また何百年と受け継ぐ、負の遺産だと思っています。今までの自分の選択は間違っていなかったのだろうか?子ども達を守るために、今の私に出来ることは何か?今後、何をやっていけるだろうか?毎日、心の中で自問自答を繰り返して自分があります。

これからの未来を背負っていく子ども達に後悔をさせたくない、自分の人生にも後悔をしたくないです。毎日、出口が見えないトンネルを走っているようです。

放射能のことは、自分ではどうしようもないから考えない!と思えたら、どんなに楽なことでしょう。でも、私は母親として、そう思うことが出来ず、保養に参加することにより、心のバランスをとり生活しています。

保養は、放射能を体外へ排出、またDNAを修復する作用があると言われています。放射能は目には見えず、また、その体への影響、病気の因果関係が認められるのは、まだまだ先になりそうです。でも、今はその見えないものから子ども達を守ろうとする努力が大切ないように私には思えます。

